

「キリストのからだなる教会のために」 “For the body of Christ”

警察官はどんなにストリートが汚れていても路上の清掃はしません。私達は警察官に路上の清掃を求めません。警察官には社会の安全を守ってくれるはたらきを期待します。イチロー選手は球場のパーキングで車を誘導しません。イチローならではのプロの技をフィールドで見せてくれることを私達は期待します。

The Police officers do not clean the street. We do not ask them to clean up the street. We want them to protect our safety. Ichiro does not work at the parking lot of the baseball stadium. We want to see his professional plays in the field.

それでは教会はどうでしょうか。私達の教会が求められていることは何でしょうか。「そのことをせずとも教会であること」は何か。「このことをしなければ教会ではないこと」は何か。そんなことを考えますと、このことははっきりするのではないかと思います。

How about our church? What are the mandatory things to do at our church? What are the things that we do not have to do but do at the church? What are the things that, if we do not do, people will not call us a church? If we ask these two questions, there will be a clear answer.

例えば私達は月一度のカレーランチを楽しみますが、カレーランチをしなくなったら、教会ではなくなりますか。いいえ、カレーランチがなくても教会です。今日から始まるレイバーディキャンプのようなイベントをしなければ教会ではないでしょうか。いいえ、イベントがなくとも教会は教会です。このことはカレーランチやレイバーディキャンプは必要ではないかということではなく、それらにも大切な意義があります。しかし、それらが教会を教会たらしめるわけではありません。

We enjoy our curry lunch every month, but if we do not provide curry lunch, is our church not a church anymore? No, even if we do not have curry lunch, we are still a church. We will go camping today, but even if we did not have this event, we are still a church. I am not saying we do not need these things, they are meaningful but are not necessary for the church.

しかし、もし私達の教会で聖書が語られず、礼拝が捧げられず、祈りがなされないのなら、それを教会と呼ぶことはできません。教会とは建物のことを言うのではなく、そこに集まる人達が信仰と共に、これらのことなしている、それが教会なのです。 10000人が集まる教会であっても、3人が集まる教会であっても、その人数に関わらず、これらのことがなされているのなら、それは教会です。

But if we do not open the Bible, if we do not worship in the service, if we do not pray, we are not a church anymore. The church is not about the building; it is the place where believers gather and do these things. It does not matter if there are 10,000 members or if it is a gathering of 3 people, if they are doing these things, it is church.

私達の教会は毎週、少なくとも五回、礼拝を含めて御言葉を聞き、祈る機会をどなたにも提供しています。これらの諸集会はどなたでも自由に参加できる集会です。毎月、各地で家庭集会も持たれています。そして、毎日、各自が一人で聖書の言葉に向き合うことができるように「一日一生」をお配りしています。私達が日曜日と水曜日だけでまとめ食いをし、それ以外の日は何も食べずに生きることができないように、霊の糧を私達が毎日、摂ることが出来るためです。これらを毎週コツコツと続けていきます。それが私達の信仰生活です。信仰の成長に「ある日突然」とか、「近道」はないのです。

Our church offers at least five meetings to anyone who can listen to the words of God and pray. This is the meeting anyone can attend. In addition to that, we also have house bible studies in various places every month. We also distribute a Bible reading plan for daily devotion. We cannot live by eating only on Sunday and Wednesday, we need to have our spiritual food every day. We keep that devotion every day. This is our Christian life. We do not have sudden growth nor short cut in our Christian Life.

本来、信仰をもつということは極めて個人的なことです。なぜならそれは神様と自分との間において築かれる関係だからです。しかし、そのように信仰を持つ者とされた私達に対して神様は私達に単独でその信仰を養いなさいとは言わずに、クリスチャンと呼ばれる者達が集う「教会」の中にとどまるようにと望まれているのです。それは「牧師のお勧め」ではなくて「聖書が言っていること」です。

Originally, to have faith is an individual issue because faith is a beginning of our personal relationship with God, but somehow, God does

not want us to keep our faith alone, but He wants us to remain in the church with the people who are called Christian. This is not the order of a pastor, but what the Bible tells us.

イエス様はかつてまだ教会というものがこの地上に存在していない時に、弟子ペテロに言いました。『18 わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない』（マタイ16章18節）。そう、イエス様は明確に、その強い意志と共に、この地にご自身の教会を建てるということを明言されたのです。

Jesus once told his disciple, Peter **“I tell you that you are Peter, and on this rock I will build my church, and the gates of Hades will not overcome it”**. (Matthew 16:18) Jesus told this to Peter when there is not a single church on the earth yet. Yes, Jesus said I will build the church on this earth with a powerful will.

小学校や中学校は規定された年齢の子達が集まる場所です。県人会にはその県出身の方々が集まります。しかし、教会はそうではありません。教会に集う人達はバラエティーに富んでいます。教会にはかつての仏教徒もいれば、クリスチャン信仰を失って再び教会に戻ってきたという人もいます。大正生まれ、昭和生まれ、平成生まれの人達。それぞれの理由があり当地に住んでいる私達は一人一人、日々、向かい合っているもの、背負っているものが異なります。

Only children and adolescents come to elementary and middle school. The Kenjin Kai (Japanese regional club) is the gathering of the people who come from same prefecture. Former buddhist believers come to our church, and people who once lost their faith also come to the church. Some people were born in Taisho era, some in Showa, and some were born in Heisei era, and these people come to our church. We all have different reasons to live in San Diego and we carry different things every day.

イエス・キリストはかつて「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」（マルコ2章17節）と言われました。この言葉はこの世界には病人と健康な人がいるというわけではなく、暗に私達は皆、神の前に病人である、罪人であるということを言い表しています。ただその違いは自分が病人なのか、罪人であるのか、気づいているか、気づいていないかということです。そして、その病人のために、罪人のために私は来たといエスさまは言われるのです。そのような意味で私達の教会は主を医師とする病院のようなもので、私達

はそんな主のもとに集まってくるのです。これが私達の教会なのです。

Jesus once said, **“It is not the healthy who need a doctor, but the sick. I have not come to call the righteous, but sinners.”**(Mark 2:17). This verse is not talking about how there are sick and healthy people in this world but it implies that we are all sick and are sinners before God. The only difference is either we know it or do not know it. Jesus came on the earth for the sick and the sinful. Therefore our church is like a hospital and Jesus is our doctor. This is our church.

イエス・キリストが天に戻られる前と後の違いで最も大きなことは、イエス様が天に戻られた後に、この世界にはこの教会が誕生したということです。そして、その教会の誕生と成長に最初から関わった人の一人にパウロという人がいます。彼はそれまでにこの地上になかったこの「新しいもの」を各地に開拓し、それが建て上げられていくことに人生を注ぎ込んだ人です。パウロにとりまして「教会」とはそれ以前に存在していなかったものであり、その先駆者としてパウロがいつも考えていたことは「教会とは何か」ということでした。このことを明確にしなければ教会を開拓し、形成していくモーティベーションを彼はもつことはできませんから。

The difference before and after of Jesus Christ is the existence of the church. The church was born after Christ ascended back to heaven, and Paul is one who was involved in the planting and spreading of the church. Yes, he is the one who was involved from the very beginning. He devoted his life for that. The church did not exist before that, so Paul always thinks about the question, “What is the church” Without making this clear, he cannot have the motivation to plant the church.

そして、パウロは教会について一つの真理へと導かれました。ここに私達が教会に集い、その教会にどのように関わるかということの指針が与えられるのです。パウロは教会についてこう言っています。

使徒行伝20章28節 「どうかあなたがた自身に気をつけ、また、すべての群れに気をくばっていただきたい。聖霊は神が御子の血であがない取られた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである」

エペソ5章24節 - 27節。「そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご

自身をささげられたように妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものが、いっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会をご自分に迎えるためである」

And Paul was led to the truth. This is guidance for people who come to church, and how we are to be involved with the church. Paul is talking about the church like this;

²⁸ Keep watch over yourselves and all the flock of which the Holy Spirit has made you overseers. Be shepherds of the church of God, which he bought with his own blood (Acts 20:28)

Ephesians 5:24-27; Now as the church submits to Christ, so also wives should submit to their husbands in everything.²⁵ Husbands, love your wives, just as Christ loved the church and gave himself up for her ²⁶ to make her holy, cleansing her by the washing with water through the word, ²⁷ and to present her to himself as a radiant church, without stain or wrinkle or any other blemish, but holy and blameless.

主にある兄弟姉妹。私達が集っているこの教会はイエス・キリストがその命を捧げられた、その血により買い取られた場所だということです。

Dear brothers and sisters, Paul said the church we are gathering in now is the place Jesus gave his life for and bought with his blood.

私達が何かの団体に所属する時、その先達者がどんな思いで、その団体に献身して、その形成に心を注ぎ、それを大切にされたかということを知ります。そして、そのことを知れば知るほど、私達はその団体に対する敬意と、自分の関わりを見出し、同じようにその団体へのコミットメントをします。イエス・キリストがこの教会のために流されたのは汗ではありません。イエス様はこの教会のためにその血を流されたのです。この歴然とした事実が今、私達の前にあるのです。ゆえに私達にとりまして、この教会は大切なのです。

When we belong to certain organizations, sometimes we hear of how much the old members devoted and committed to the organization and

as we know the history, we also respect and devote ourselves to the

September 4, 2016 「キリストのからだなる教会のために」 “For the body of Christ”

organization. **Jesus did not shed sweat but he shed blood for our church. This is the fact about our church. Therefore our church is so precious to us.**

箴言に「牛がいなければ飼葉おけはきれいだ。しかし牛の力によって収穫は多くなる」(箴言 14章4節 新改訳聖書) という言葉があります。牛が牛舎にいないければその牛舎が汚れることはありません。悪臭もなく、蠅もおらず、鼻水の洗礼を受けることもなければ、排泄物を水で流す必要もありません。そうです、牛さえいなければ手間はかかりませんし、牛舎はきれいです。

The book of Proverbs said **“Where there are no oxen, the manger is empty, but from the strength of an oxen come abundant harvests”**. (Proverb 14:4). If there are no oxen, the manger is clean. No smell, no flies, and no dirtiness. Yes, if there are no oxen, the manger will remain clean.

私達は自宅の家の物を片づけ、整理整頓します。しかし、ものが片づいた状態というのは束の間で継続しません。ものを片づけてひと月、家を留守にして、家に誰もいなくなれば家は片づいた状態を維持できます。しかし、そこに人がいる限り、悲しいほどに早く、家の中は瞬く間にもとの混沌に戻っていくのです。なぜですか、そこに私達が住んでいるからです。私達が生きるということは、このようなことを避けて通ることができないのです。

We sometimes clean up our house, but it is temporal, it does not last long. If we do not live there, our house is clean, but as long as somebody is there, it quickly becomes necessary to clean again. Why? Because we live there. We cannot avoid this if we live there.

私達は覚悟しなければなりません。牛のいる牛舎の飼い葉おけが汚れるように、人がおる所にはすべきことがたくさんあることを。このことは実際に人がしなければならぬルーティンだけではなく、私達の心の問題、他者の心の問題から起こるあらゆる問題にもあてはまります。人がいなければそこには問題はあります。人がいる所、そこにはいつも何かしらの問題があります。そして、その問題に向き合う人が必要なのです。

We have to accept that the manger gets dirty because of our own self's. Not only is it a clean up routine. but it also applies to our inner problems. If there is no man, there is no problem. But if there are people, there are always problems, and we need people who can face the

problems.

ソロモンは牛がいなければ飼葉桶はきれいだと言いました。でも、牛がいなければ収穫はないのです。ですから牛はいますし、飼い葉おけは汚いのです。そして、その飼い葉桶にイエス・キリストは寝かされたのです。そうです、イエス・キリストがそんな飼い葉おけに寝かされたということは、この世界の汚れのただ中にイエス様が生きることをよしとされたということです。

Solomon said if there are no oxen, the manger is clean, but if there are no oxen, there is no harvest. Therefore there must be oxen and there must be a dirty manger. To this dirty manger, Jesus was laid down. God allowed Jesus to be born into this sinful world.

その時、イエス様が飼い葉桶に寝かされることにより、神はその手を文字通り汚すことをよしとされたのです。なぜなら、自らの手を汚さなければ牛舎の掃除はできないように、自らも汚れなければ、そこに生きる者を救うことはできないからです。イエス様が寝かされた飼葉はその時、悪臭で満ちていたでしょう。それは私達の世界にある罪の悪臭のただ中に生きる神の子の姿をあらわしていました。

When God laid down his son on the manger, God allowed his hands to become unclean. Just like we cannot clean a room and keep clean hands he cannot save us without becoming unclean himself. It can be imagined that the place where Jesus was laid down smelled and that represents the smell of our sinful world.

そして、その覚悟が一番、顕著にあらわされたのがイエス・キリストの十字架でした。そうです、神の手は汚れたばかりではなく、そこには釘が打たれたのです。この世界の秩序を壊してしまう人の罪のために、キリストは十字架におかかりになりました。この世界を見回せば分かります。この世界はいたるところで贖いを必要とする場所だということが。

And God's commitment appeared most clearly in the cross of Jesus Christ. Yes, not only did he become unclean but was nailed. He was crucified for our sins. When we are looking around our world, we find the world need redemption.

September 4, 2016 「キリストのからだなる教会のために」 “For the body of Christ”

私が中高生の時に毎年、夏に大島のキャンプに行きました。そこでよく歌われた歌に「主の手足になろう」という歌があります。最近、この懐かしい歌をユーチューブで見つけ、久しぶりに聴いたのです。

惜しみなく与えた主に	惜しみなく捧げよ
主の手は傷ついている	みんな主の手になろう
惜しみなく与えた主に	惜しみなく捧げよう
主の足は痛んでいる	みんな主の足になろう

When I was young, I went to Oshima Bible Camp every summer. We sang the song “To be Lord’s hand and feet”. I found this song in Youtube recently and listened.

Our Lord gave us generously what he has, this is why, we will devote ourselves. His hand was injured by nail. Let us be his hand. His feet was injured by nail. Let us to be his feet.

イエス様が復活され弟子達の前に姿をあらわした時、そこに弟子の一人、トマスはいませんでした（ヨハネ20章24節—29節）。ですから彼は言ったのです『わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない』（ヨハネ20章25節）。

When Jesus was resurrected, one of his disciple, Tomas was not there, and because of that Tomas said, “Unless I see the nail marks in his hands and put my finger where the nails were, and put my hand into his side, I will not believe.”

この後、すぐにイエス様はそのトマスにあらわれ、ご自身の手にある釘後と、脇腹に槍で突き刺された傷跡を見せました。言うまでもなく、その両足の甲にも釘後が残っていたことでしょう。そう、イエスの手足には傷跡が残されていたというのです。

Soon after that, Jesus appeared before Tomas, and showed his hand and side. Of course, where there were wounds.

私達の家族や友人が手の平に大きな傷を負い、何針も縫ったとします。その人に荷物をもたせますか。その人に水仕事をさせますか。足の甲の骨が砕けて車いすに乗っている人にトイレの掃除をさせますか。イエスの手足の傷跡、それは私達のため。その主がこの地に私の教会を建てると言われました。その教会についてパウロはさらに深い真理に導かれ、『あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である』（コリント第一の手紙12章27節）と言いました。キリストを頭とするキリストの体なる

教会で、私達はその体に属している器官なのです。その器官である私達がすべきことは何でしょうか。惜しみなく与えた主に 惜しみなく自らを捧げるという事ではありませんか。

If our family or friend gets injured on his palm, and is stitched. Are you going to ask for them to carry the bags? To wash the dishes? Are you asking the person who fractured his foot sitting on a wheel chair to clean up the bathroom?

The wounds of Jesus were for us and He said he will build his church right here. Paul spiritually sees His church and said, ²⁷ **Now you are the body of Christ, and each one of you is a part of it.** Jesus is the head of the body and we are each an organ of the body. What should we do for Him? Jesus gave without relenting, and we should devote ourselves just as he did.

今日、皆さんのお手元に教会の奉仕を配りました。私は今日、皆さんに神様が与えられている賜物云々ということはお話ししませんでした。それ以前の「教会とは何か」「そこに集う私達は何をすべきか」ということをお話ししました。

Today we distributed the church volunteer form. Sorry, we cannot provide in English, but please come to me or the deacons. We will explain about that form. I did not talk about our talent today, but I preached about “what is the church?” and “What we should do for the church”.

それがいかなる場所でありましても人の集まる場所にはなすべきことがあります。食事をするにはその準備が必要であり、また後片づけが必要となります。人が集まれば全てが自動的に整い、礼拝が始まるのではなくて、そのためには礼拝に仕える人が必要となります。礼拝の玄関を開ける人から、グリーターや司会者、賛美奉仕者、メッセンジャー、教会の回りのごみを拾ってくださる方……。一つのことが成されるためにはその背後に多くの献身的なはたらきがあるのです。

Wherever it is, when people gather, we have things to do. We need preparation for our meal and also to clean up after that. When we gather for the worship service, everything will not be prepared automatically but we need people who serve. We need someone who opens the entrance door, Greeter, Usher, Praise Team, Messenger and even

someone who can pick up trash around the church. We should not forget these people behind our worship service.

この一覧に記されているように、このはたらきに関わる方達を「チャーチビルダー」と呼ばせていただきました。この一つ一つの働きはキリストの教会を建て上げることに直結するものだからです。ですから、それにかかわる者達はチャーチビルダーなのです。

I call them “Church Builder” in the sheet because their devotion really builds up the body of Christ. It all connects to the church.

私達はこのはたらきを義務としてするものではありません。あの人に申し訳ないからするというものでもありません。私達はなぜこのはたらきをするのでしょうか。言うまでもありません。主が命を捨ててまでも愛された教会であるゆえに、私達もこの教会を愛し、それに仕えるのです。すなわち、私達の奉仕は牧師のためでもなく、誰からのためでもなく、イエス・キリストのためになされるべきものなのです。惜しみなく与えた主に、惜しみなく捧げよう、これ以外に私達のモーティベーションはなく、このモーティベーションを見失う時に私達の心から大切なものが失われます。

It is not our obligation. We are not doing this for him or for her. Then why do we do these things? Our Lord gave his life to the church, and we also love His church. Our devotion is not for the pastor, but only for our Lord, Jesus Christ. Jesus gave himself without holding anything back. This is our motivation and if we lose that motivation, we lost the most important thing in our heart.

ある人が建築現場を訪れました。そこで石工達が働いていました。そこでその人は一人の石工に尋ねました。「何をしていますのですか」。「見りゃ、分かるだろう。石を削っているのさ。全くこの暑さでたまらないよ」。別の人にも同じ質問をしました。「何をしていますのですか」。「あぁー俺たちのことか？壁を作っているのさ。全く面倒な仕事さ」。第三の人にも同じ質問をしました。「何をしていますのですか」。「よくぞ聞いてくださった。私は大聖堂を建てているのさ。こんな素晴らしプロジェクトに関わることができて私は本当に幸せ者だよ」。

One person visits a construction place. The workers work there. The person asks him 'What are you doing? He responds "I carve the rock. I hate doing this in the hot weather!" The person asks another, "What are you doing? He responds "Are you asking me? We are building the wall. It

September 4, 2016 「キリストのからだなる教会のために」 “For the body of Christ”

is a boring job. I am looking forward 5 pm”. The person asks another worker. “What are you doing?”. He responds, “Thank you for asking. I am building the cathedral. I am the luckiest man because I am a part of this great project”.

三人の石工は全く同じ仕事をしていたのですが、その仕事に異なった意味を見出していました。仕事に対する視点が異なると、取り組み方まで違ってくるのです。万事、私達の人生のあらゆる取り組みはここにかかっているのです。そして、言うまでもなく私達がチャーチビルダーとして捧げることはキリストの名のもとに最も価値あることなのです。

They are doing the same job, but each of them find different meaning and purpose in it. When the insight is different, their willingness will be different. This is common to all things we are engaged to in our life. If we serve the body of Christ as a church builder, we are committed to the most valuable project on this earth.

私達がグリーターとして教会玄関に立つ時、私達は主の宮の門番として神に仕えているのです。私達がアッシャーとして献金を集める時、それは兄弟姉妹の献身を大切に主のもとにお届けする役目を担っているのです。皆さんは献金を運んでいるのではなく、主のもとにお届けしているのです。ピアノを弾くとき、会衆の賛美を導くとき、私達は主の御前にその賛美をお捧げしているのです。私達が子供達のミニストリーに関わる時、主から託された子供達の前に私達は立っているのです。

『だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである』 (コリント第一の手紙15章58節)。

Did you know when one stands at the church entrance door, they are standing there as a guard of His house. As an Usher, one is not carrying the offering, but is delivering the offering to the Lord. When a person leads our congregation with a praise song, we are offering our praise to the Lord. When we are involved in children ministry, we are standing before God with the children.

⁵⁸ Therefore, my dear brothers and sisters, stand firm. Let nothing move you. Always give yourselves fully to the work of the Lord, because you know that your labor in the Lord is not in vain.

主の前に偉大な仕事はありません。しかし、主の前に喜ばれる仕事があります。そう、主は徹頭徹尾、仕事の大きさではなく、私達の心を見ます。今日、お話ししてまいりましたことを考えますと、あの大預言者イザヤが神様から受けた召命の言葉も私達一人一人に語りかけられている言葉として聞こえてこないでしょうか。

わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」(イザヤ6章8節)

There is no great work before God, but we can do work which makes God glad. It is not about the size of the work, but God looks at our heart. When we think about what we heard today, the words of calling addressed to the great prophet Izaiah also calls to us.

⁸Then I heard the voice of the Lord saying, “Whom shall I send? And who will go for us? “And I said, “Here am I. Send me!”

お祈りしましょう。

Translated by Makoto Okura